

## プロトタイプ理論を用いた英語前置詞の実践的授業

英語前置詞の習得は日本人英語学習者にとって困難なものであったが、認知言語学におけるプロトタイプ理論を用いた多義語の分析は、英語教育の分野に光明を与えている (Brugman 1981; Lakoff 1987; and Dewell 1994)。Brugman の 'over' に関する先駆的な研究を Lakoff は発展させ、プロトタイプからの様々な意味拡張を示した。その意味拡張の中に 'above' や 'across' の意味内容も含むという点が曖昧であると Dewell は批判し、「焦点化」を取り入れることで「弓型」のプロトタイプから 'over' の様々な意味拡張が説明出来るとしている。一方、日本人学習者を対象とした前置詞の研究としては、Hayashi 2008 が挙げられる。彼は 'at' 'on' 'in' の 3 つの前置詞における日本人学習者と英語話者の概念化の違いを緻密な調査で明らかにし、拡張義のカテゴリー化の違いが学習者の誤りにつながる例を示した。具体的数値によるプロトタイプの割り出し方法には説得力があるが、彼の研究は日本人学習者の現状における英語前置詞の概念化の調査であり、授業における有効性を示したものではない。

以上の先行研究を踏まえ、本研究では、プロトタイプからの意味拡張を用いた英語前置詞の実践的な授業の成果と課題を発表する。本研究の目的は以下の 2 点である。

- 1) 認知言語学の理論を英語教育の現場で、どのように活かせるかを探る。
- 2) 'over' の多義性に焦点を当てたプロトタイプからの意味拡張が理解可能か調査する。

これら 2 つの研究目的遂行のために、まず、認知言語学の理論を英語教育に応用するという観点から、文法説明にイメージスキーマを取り入れた「読む」「聞く」「書く」「話す」の 4 技能の向上を目指す総合英語教材のユニットを作成した。このユニットでは、前置詞 'over' に焦点を当て、長文読解、聞き取り、会話、穴埋め問題、T/F 問題などの様々な形式の問題を盛り込み、教師による 'over' の説明の後に学習者がイメージスキーマを活用して、実際に 'over' の練習問題に取り組むことができるようにした。このユニットを用いて 90 分の授業を実験群 132 名に実施した。この授業では、ターゲット項目である 'over' を説明する際、最初に 'over' のプロトタイプのイメージ図を提示し、次にメタファーに基づくネットワークを示すことにより意味拡張を説明していった。また、実験群との比較のために統制群の授業も行った。それは、従来よく行われている教え方で、'over' の意味を羅列的に説明する 90 分の授業を 82 名に実施した。実験群、統制群ともに、授業の前後に、'over' の学習者の理解度を測定するためのプレテストとポストテストを実施した。両群それぞれのプレテスト、ポストテストの結果に t 検定を実施したところ、実験群の t 値のみが有意であることが分かった。このことから、認知言語学の理論を取り入れた授業の方が、従来型の文法説明の授業よりも 'over' に関して授業効果があったということが出来るであろう。また、認知言語学の理論を用いて

授業をした実験群にのみ、使用教材と授業での教え方に関するアンケートを実施した。アンケート結果は、全体的に肯定的意見が過半数を占め、「文法の説明がわかりやすかった」や「従来の文法説明よりも良い」といった認知言語学の理論を応用した授業と従来型の文法説明の授業の違いを問う項目に関しても肯定的評価が多かった。また、学習者の自由記述回答からも、従来型の文法説明とは異なる認知言語学の理論を取り入れた授業に学習者が刺激を受け、授業に意欲的に取り組んだ様子が伺えた。今後の課題として、学習者の習熟度別における認知言語学の理論を応用した授業の有効性を測ること、また、今回のプレテスト、ポストテストの解答方法が選択式のみであったので、プロダクティブなテストなどを取り入れて多面的に学習者の理解度を把握する必要があることなどが挙げられる。しかしながら、プレテスト、ポストテストの結果分析から、実験群にのみ有意な正答率の伸びが見られたこと、そして認知言語学の理論を応用した授業に対する学生の肯定的なアンケート結果から、認知言語学の理論を応用したテキストやそれを使用した授業がもたらす英語教育への効果に期待が持てそうである。

#### <主要参考文献>

- Dewell, Robert B. (1994) 'Over again: Image-schema transformations in semantic analysis' *Cognitive Linguistics* 5-4, Berlin: Mouton de Gruyter
- Hayashi, Masato (2008) *Second Language Acquisition of English Prepositions*: Tokyo: Eihosha
- Lakoff, George (1987) *Women, Fire and Dangerous Things: What Categories Reveal About the Mind*. Chicago: University of Chicago Press.